

前糖尿病状態は心臓血管病リスクと関連あり

前糖尿病状態の患者は世界的に増加しているが、前糖尿病状態を定義する空腹時血糖やHbA1cのカットオフ値はガイドラインにより異なる。また、全死因死亡および心臓血管イベントとの関連性についての報告も一貫していない。本研究では、前糖尿病状態の異なる定義と心臓血管病リスクおよび全死因死亡との関係について、メタ分析を実施し検討した。

電子データベース (PubMed、Embase、Google Scholar) を用い、前糖尿病状態と複合心臓血管イベント、冠動脈疾患、脳卒中および全死因死亡との関連について報告している研究のうち、補正後相対リスクおよび95%信頼区間が設定されている、一般集団対象の前向きコホート研究53件 (総被験者数1,611,339例) を選出し、メタ解析を行った。前糖尿病状態については、空腹時血糖異常 (米国糖尿病学会基準で5.6~6.9 mmol/L、WHO基準で6.1~6.9 mmol/L)、耐糖能異常 (経口ブドウ糖負荷試験2時間値が7.8~11.0 mmol/L) またはHbA1c高値 (米国糖尿病学会基準で5.7~6.4%、英国立臨床評価研究所ガイドラインで6.0~6.4%) と定義した。追跡期間中央値は9.5年であった。正常血糖と比較すると、前糖尿病状態による複合心臓血管イベントの相対リスクが、米国糖尿病学会基準の場合1.13、WHO基準の場合1.26、耐糖能異常の場合1.30であった。また、冠動脈疾患 (相対リスクは同様にそれぞれ1.10、1.18、1.20)、脳卒中 (1.06、1.17、1.20)、全死因死亡 (1.13、1.13、1.32) のリスク増加とも関連がみられた。HbA1c高値は、どちらの基準においても複合心臓血管イベント (相対リスクは米国糖尿病学会基準で1.21、英国立臨床評価研究所基準で1.25)、冠動脈疾患 (同様にそれぞれ1.15、1.28) のリスク増加と関連していたが、脳卒中や全死因死亡のリスクとの関連は認められなかった。

したがって、耐糖能異常や空腹時血糖、HbA1c高値で定義される前糖尿病状態は心臓血管病のリスク増大と関連し、空腹時血糖値5.6mmol/L以上またはHbA1c5.7%以上でリスクが高まる可能性が示唆された。

出典 : British Medical Journal(Clinical research ed.). 2016 Nov 23; 355: i5953